

社会教育委員の会議 会議概要

1	審議会名	令和5年度第1回安曇野市社会教育委員の会議
2	日 時	令和5年6月20日(火) 午前10時から11時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎大会議室
4	出 席 者	猿田みさ子委員(議長)、丸山明男委員(副議長)、鳥羽将司委員、赤羽敦子委員、 荻原義重委員、筒井年恵委員、柿本豊委員、池田安宏委員、伊藤政江委員、 浅見郁子委員、三澤正彦委員
5	市側出席者	矢口教育部長、生涯学習課二木課長、文化課三澤課長、生涯学習課大蔵係長、 生涯学習課山田係長、生涯学習課遠藤係長、文化課佐野係長、文化課堀係長、 文化課逸見係長、文化課奈良澤係長、子ども家庭支援課古畑係長、 子ども家庭支援課赤羽係長、スポーツ推進課小平係長、地域づくり課金子係長、 高齢者介護課蓮井補佐、健康支援課小林係長、生涯学習課黒岩主査、小笠原
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和5年6月30日

協 議 事 項 等

会議概要

- 1 開 会 生涯学習課二木課長
- 2 あいさつ 矢口教育部長
- 3 令和4年度事業報告について《事務局説明》

【委員】

事業報告と実績の資料を分けている理由はあるか。

【事務局】

資料1の方は生涯学習の事業についての報告、資料2の方は生涯学習推進計画の重点項目についての報告・評価で、同じ生涯学習事業についての報告であるが、そういった違いということでご了解いただければと思う。

【委員】

資料2を見ると、そこには評価基準、何%とか何部発行した、何回開催したということがあったが、事業計画を見てそれから実績報告を見てという作業があったので、一緒にまとまっていれば、見やすいと思った。

【事務局】

本日の会議内容と擦り合わせ、調整して、ある程度一体化できるものは一体化しようと検討している。次回の会議以降でお知らせできればと思っている。

【委員】

1点目は、各公民館の事業の中に安曇野コミュニティスクール事業について記載があるが、第一歩を踏み出せたとか、昨年度より前進したとかあるので良かったと思う。各方向、ニーズに応えるにはどんな会議を持っていったらいいのかということも考慮して、更に前進できるよう活動をお願いしたい。

2点目は、コロナ前に単に戻すのではなく、新しい形や取り組みに価値を生み出すということも大切ではないかと思う。資料を見ると、代替事業ということで、例えば豊科の運動会に代わる豊科deロゲイニングとか、堀金地区の一周駅伝競走に代わる中長距離記録会というのが書かれているが、この代替事業によりある程度目的が達成されれば、それでも良いのかなと思っている。代替事業を行われた担当者はどんな風に考えているかお聞きしたい。

【事務局】

まず1点目だが、コミュニティスクール事業を4年度から国型としてスタートして、会議を市内5地域で4回から2回、あと学校区で2回ずつやったということで回数の差はあったが、それぞれコミュニティスクールに参加している色々な団体が何をやっているかという情報共有が図れた。

今年度は、よりこのコミュニティスクール事業の趣旨の理解を深めるために、5地域まとめて全体の研修会を開催したいと思っている。6年度のコミュニティスクール事業の会議をどこの地域も同じ開催数に平準化することを目的に事業案を策定したい。

【事務局】

豊科地域は、昨年度は運動会の代替事業として豊科deロゲイニングというものを開催した。26チーム88人ということで、運動会に比べれば少人数だった。内容としては地域のチェックポイントを探しながら歩き、楽しみながら交流を深めたわけだが、参加者はみんな一様に大変良かったと言っていた。また、郷土を再発見する機会にもなったと思う。今年度も豊科地域ではロゲイニングを場所を変えて実施する予定である。チェックポイントを作っていくのも、継続していく上ではなかなか大変なことだと思

う。その辺を含めて来年度以降、運動会の復活も含めて改めて現在検討している。

【事務局】

堀金では、一周駅伝大会が昨年度は中長距離走等になった。できれば復活したいという意向はある。今後地区公民館と協議し検討すると伺っている。

【議長】

堀金なので付け加えてお話しする。形は変えながらも地域のそういう行事は続けていきたいと今年の公民館の役員研修会でも前向きな意見が出されたところである。

【委員】

項目ごとに決算額、予算額とあるが、これは講師謝礼とか消耗品とか全て含まれた額という理解でよろしいか。

【事務局】

総額である。

【委員】

そうすると10ページの児童館運営事業については、指定管理料という理解でよろしいか。

【事務局】

その通り指定管理料を含めた額である。

【委員】

18ページの豊科公民館の全市的事业「出会い・ふれあい・生きがいセミナー」の講師謝礼が0になっているが、いらなかったのか。

【事務局】

講師謝礼が出ているはずなので、決算額の誤りではないかと思う。

【委員】

広報誌の作成にあたって、青木花見が最優秀賞をいただいたということで、本当に喜んでいる。力を入れている公民館は本当に前向きなのだが、実力が伸びてきていないところもある。そういうところの力の入れ方を工夫してほしい。

広報誌以外に、区自体で公民館のホームページを作っているところもいくつかあるが、このホームページについての評価なり、さらに広める方法の検討策は、いかがなものか。

【事務局】

地区公民館で広報誌を発行していないところがある。どのような形で支援ができるか、何か研修会なりでお互いに情報交換できる場を設けるなど、これから検討させていただきたい。

ホームページ等のデジタル・ICT化を活用した色々なPRについては、2年前から各公民館事業でICTを活用した事業を少しずつ進めている。ただ、なかなか目に見える成果にはなっていない。

【委員】

これからの図書館事業というのは、AIの発展とかそういうことを阻止することは絶対できないと思うので、その中でどのように私達は捉えて活動を展開していったらいいか一つ考えていただきたい。

コミュニティスクールのこれからの中身を考えていくときに、この地域の中で自分が生まれ育って、そしてこれからの地域を守っていくのだという人作りをぜひ柱のひとつとして入れていただきたいと思います。また、先日あやめ祭りで子どもが生き生きと自然と関わって遊んだ。このようなことも取り入れてほしい。

【事務局】

図書館の活動についても、今多様な活動を進めているところである。これまでの図書館というと、やはり待っている活動が多かったが、今は外に出ていき、発信していくという新たな活動も進めている。

【事務局】

コミュニティスクーについては、浅見委員さんの提案が最終形だと思う。ただ1年や2年でできるものではないと思っているので、そういった方向に向けて努力していきたい。

【議長】

浅見委員がおっしゃった、子どもが生き生き自然の中で遊ぶ、そういう関係の所もおっしゃっていたので、もう少し説明していただきたい。

【事務局】

あやめ祭り自体は地域のイベントということで、地域づくり課が主体的にやっていて、明科公民館は私と館長とかが関わらせていただいた。土曜日は公園の中にピーク時で300人ぐらい、日曜日は500人ぐらいいたのではないかと思います。

【委員】

公民館で行われているICT講座、例えば、三郷のスマホ教室は募集人数をはるかに超えた応募があったという大変ありがたい評価が書かれているが、応募者の年齢といったものは、どんなふうに把握されているのか。

【事務局】

参加する年齢層はやはり60代、70代、80代の方がほとんどである。

【事務局】

今、明科公民館の例を挙げた。全体的な傾向は、調査した上で回答させていただく。

【委員】

豊科の郷土博物館には2階があるので、昇降機のようなものを設置したらどうかというようなことが新聞に載っていた。車椅子の方にはエレベーターが必要ではないか。作るのであれば、しっかりしたエレベーターを作って2階に登っていただくことが必要ではないかと思う。

それとこれから10年、20年、30年先の安曇野市の文化を残していくということを考えると、もし今の博物館で残すのであれば手狭ではないか。

それともう一つは、安曇野市には旧町村が持っていた文化財が残っているわけだが、管理は指定管理という形で行われ、掛かっている費用が約1億円。これが市の財政の中から出ていくわけなので、そういうものをもう1回精査をして、残すべきものは何か、継続する物は何かということを検討していくことが今後の安曇野市の長期展望に必要なだと思う。そうすると、たくさんの建物があるとそれを維持管理していくのは非常に大変だと思う。そんなことも含めて、今後の豊科郷土博物館のあり方、先の見通しをお聞かせいただきたい。

【事務局】

新しい博物館をどうするのかの見通しが立っていない中で、郷土博物館にエレベーターを設置するという大きな工事をするのは、今のところ現実的ではないと考えている。なので、昇降機ということで検討していこうと考えている。

また、平成27年度に策定された新市立博物館構想について、また検討する中で新市立博物館をどうするのか、またそれに伴って既存の施設をどうするのかということもあわせて検討していきたい。

【事務局】

新市立博物館構想においても、豊科近代美術館を基幹とするという構想で動いている。豊科近代美術館も建設から30年という時間が経ち、大規模修繕工事が必要で、来年度修理をする準備を進めている。休館が必要な見込みなので、この休館の中で今後どのような形の美術館がふさわしいかということをお聞かせをさせていただきたい。

今ある施設、美術館で使えるものは使い、新市立博物館構想等を踏まえて考えていかなければいけないと認識している。

【委員】

昇降機は車椅子の方でも対応できるのか。車椅子がそのまま昇降機に乗れなければ、無用の長物になってしまうのではと思う。

【委員】

メーカーによっては車椅子をセットできるものがある。但し、価格は3倍ぐらいする。

【委員】

可能性はある。

【事務局】

そうです。

【委員】

近代美術館は耐震診断だけで847万円ぐらいかかり、耐震構造にするには何千万という費用が掛かると思うが、市民の皆さんの理解が得られるかどうか。

豊科交流学習センターは指定管理で、中央図書館「みらい」は、指定管理ではない。片方は指定管理で片方は指定管理でないということはどういうことか。

【事務局】

「きぼう」全体ではなく「きぼう」の2階部分が指定管理となっている。1階部分の図書館は直営である。2階部分は豊科近代美術館と接続しており、大きなホール部分は美術館の展示室としても使うことができる。美術館と一体で運営した方がより効率的になるということで、「きぼう」の2階の部分だけ指定管理となっている。

【委員】

児童館を知らない、知っているけれど行けないということを話されるお母さんが結構いて、まだまだ周知が足りないと感じた。色々ところで広報していただければとても嬉しい。

【事務局】

児童館は大変重要な場所と考えている。様々な相談の場でもあり、いろいろな問題を未然に防ぐ、気づく場所にもなると思っている。母子手帳アプリを安曇野市でも使っている。そこに児童館の情報を入れていこうと動き出している。児童館は地域ごとにあるので、近くの拠り所として使っていただければ理想的だと思っている。引き続き、横の連携で、保健医療の方とも繋がっているいろいろ活用していけばと思っている。

【委員】

安曇野の歴史を見ると堰を開拓することによって、安曇野が肥沃な土地になってきたという長い歴史があるので、その歴史を子供たちに伝えることが必要ではないかと思う。コミュニティスクール事業への提案であるが、拾ヶ堰のクリーン作戦を安曇野市の学校全体がきちっとやっていくことが一つのテー

マではないかと思っている。今まで拾ヶ堰のクリーン作戦を豊科南小学校がやっていた。今は豊科北小学校でも矢原堰を扱ってクリーン作戦をやっている。これをもう少し延長していけば、穂高の方へ行けば、穂高南小学校や西小学校、ひいては穂高東中学校が、矢原堰と拾ヶ堰の開拓に係る勉強をして、そこに足を運んで綺麗にしてみるという活動が必要ではないかと思う。一方、明科では五ヶ用水があって、やはりそこに先人の苦労があり、そういうものを、一つの教材として共通して学んでいくことが大事なことではないかと思う、是非学校教育の中に取り入れることができないか提案をさせていただきたい。

【事務局】

拾ヶ堰について、各学校で探究的学習の時間の中で何校か拾ヶ堰について勉強している。それは学校全体とか学年全体ではなくて、クラス単位で子供たちがそれを学んでみようという発案の中でやっている。いろいろな方に講師をお願いして、拾ヶ堰についての学習は今学校で深まっていている。

【委員】

コミュニティスクールの関係で三郷も地域学習の中で堰についても学んでいる。拾ヶ堰も含めて、安曇野は堰によって開拓されてきたという歴史を学ぶことも大事だと思う。ただ、どの学校も拾ヶ堰をやりなさいというふうにはならないようにしていただきたい。

【事務局】

子どもたちが自分たちでこれについて学びたいという形で、今広がっているところである。安曇野を表すには、やはりその堰の歴史というのは非常に重要だと思う。文化課で各地域の歴史を調べ、現在は「明科の宝」から「三郷の宝」までが出来ているが、そういった中でも、是非堰についても皆がわかりやすいように内容を深めていっていただければと思っている。

【委員】

安曇野市の米作りには欠かせない堰について、自分たちももう少し勉強したり、子どもたちに伝えられればと思う。

4 令和4年度安曇野市生涯学習推進計画実績報告について《事務局説明》

【委員】

私は市の防災アドバイザーで、防災訓練の時に手話通訳の方が参加してくれたが、事前に手話通訳をする方がいるという文面が広報にあったことがすごく嬉しかったと言われた。これからいろいろな講演とか講習会でやる際に、「手話通訳を希望する方は遠慮なく申し出てください」という1行が入っていると参加しやすい。目の不自由な方、ヘルプマークもそうだが、事前にそういったことを謳っていれば「ここへ私は安心して参加できるんだな」ということがわかる。目が見えない方に限らず、災害の場合は人の命に関わることなので、健常者だけのサイドの話ではないと思う。今回の資料のポイントも小さくて読めない。そういった、ちょっとした心配りが必要ではないか。

【事務局】

手話も含めた障がい者の方への配慮など、各方面に伝えて出来る限りの配慮をするようにしたいと思う。資料については、小さい字で大変申し訳なかった。今度の後期計画や事業報告の作成にあたり、様式がどうあるべきかから見直しをして見やすいものを検討したい。

【委員】

三郷の七日市場公民館の活性化の話し合いに参加した。建物の活用について話し合いを持ったが、その際にWi-Fiとか、インターネットをこの場で使えるといいといった話があった。そうすると若い皆さんもそこに集まって活動したり、文書作成についても、館報、公民館だよりを作るにしても都合がいいという話が出た。安曇野市には98分館あるから大変だとは思いますが、何かそういうような環境を整えて、妨げ要因の一つでも解消していただければありがたい。

【事務局】

市では公共施設に地域の公民館を含めて、Wi-Fiを使える環境を整えているが、現状として各地区98の公民館全てにWi-Fiが必要かどうかということは分からないので、それぞれの地区の判断でポケットWi-Fi等を設置して使っていただきたい。

【委員】

コロナの関係で今オンライン会議とかZoomで会議ができるという時代になってきている。例えば、今日の社会教育委員会の会議もどうしても来られないという場合は、自宅からオンラインで参加できる方法を今後は考えていった方がいいのではないか。

【事務局】

コロナ禍で行政同士、関係機関の会議はオンラインで進めていたが、こういった委員会の方もオンラインのやり方があっても当然のことだと思う。ただ、それぞれ皆さんの家の環境でインターネット等に接続できる環境だとか、機器をお持ちか、ということもあるので、今後検討していきたい。

【議長】

時間も迫っているが、担当部署の皆さんで発言がなかった方にせっかくなので、一言お願いしたい。

【事務局】

先ほど出ていた指定管理の関係、豊科近代美術館の関係を担当しているので、今後様々ないただいたご

意見を吟味して先に活かしていきたい。

【事務局】

今年度から2年半ぐらい掛けて、文化財を保存活用し、まちづくり等に生かして活用していくという計画を立てている。

【事務局】

デジタル図書館という電子図書館を去年の8月から始めているが、是非ご活用していただきたい。今お話をお聞きしても、やはりデジタル時代だなということを痛感する次第だが、年齢が高い方をどうやって1人も残すことなく、デジタル化を進めるかということが図書館運営での課題である。もちろん、紙ベースの本を読んでもいただけることはとても大事で、お子さんに対する読み聞かせ等は紙無くしては、やはり心の成長の問題もあり考えていかななくてはならない。また、高齢者の方、特に図書館に来られない方々にいかに本を届けていくか、それはデジタルであれ、紙ベースのものであれ、やっていかないと駄目だと思っている。

【事務局】

横の連携をし、児童館の周知、子育て中の皆様に役に立つ情報発信など、計画を策定していく中で進めていきたい。

【事務局】

スポーツ推進課では、親子を対象としたもの21教室、18歳以上対象としたもの5教室のスポーツ教室を開催している。

【事務局】

市民一人一人が主役のまちづくりということで協働のまちづくりに取り組んでいる。地域では様々な市民活動団体の皆様が活動されていて、その中で課題になるのが資金調達である。今、新しくクラウドファンディングというものが、昨今あらゆる分野で取り組まれている。インターネット上で我々はこんな活動をしているということを、全世界に発信して、共感をいただいた方から資金を寄付していただくといったものである。

【事務局】

高齢者が元気で長く暮らしていけるようにサポートしている。公民館等、高齢者に集っていただき、健康な暮らしが1日でも長く続く様にサポートしていきたい。

【事務局】

健康作りの推進ということで、各地区で健康指導士・保健師といった専門職が地域に根付いた健康講座等を実施している。地区の健康作り推進委員が主体となって健康講座を開催しているので、回覧板等で目に触れる機会があれば、ぜひ皆様にも積極的に参加いただきたい。